



環境公共 通信

“地域づくりの新しいかたち” 環境公共



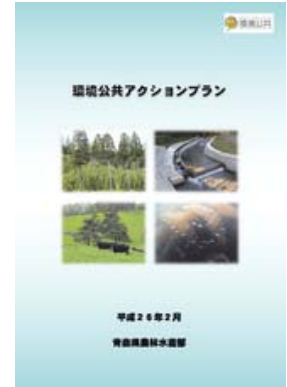
第21号 平成26年 6月
発行/環境公共推進会議事務局
〒030-8570 青森市長島 1-1-1
青森県農林水産部農村整備課内
TEL 017(734)9545 FAX 017(734)8153

■最近の話題

「環境公共アクションプラン」を改訂しました

環境公共アクションプランは、「環境公共」を実施するに当たって、農林漁業者、地域住民、関係団体などの関係者が取り組む活動の具体的な内容や手順を示したものです。これを基に、地域の協働を促進しながら、山・川・海を一体的に結んだ取組を進め、消費者が求める安全・安心で優れた農林水産物を育む「きれいな水」を維持・確保してきました。「環境公共」に取組により、農林水産業の基盤を強化し、県の重要政策である「攻めの農林水産業」を支えています。

これまでの5年間、平成21年2月に策定したアクションプランをベースに、「環境公共」の取組を進めてきました。そして、平成26年2月にこれまでの実績や課題の整理を行った上で、関係者がより使いやすい内容になるように見直しを行い、平成30年度までの5年間の実施目標を掲げた新たな「環境公共アクションプラン」を策定しました。



『新アクションプラン』

【環境公共アクションプラン】<http://www.pref.aomori.lg.jp/sangyo/agri/kkap2602.html>

環境公共 の3つの方向性（取組事例）

『地域力の再生』



ビオトープ池に間伐材の木橋を設置するなど、地域で自主的な活動を展開

『農・林・水の連携』



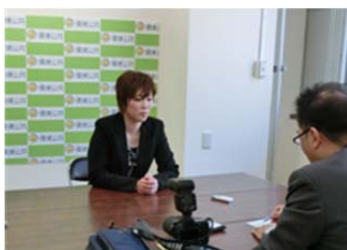
田んぼの暗渠排水の疎水材にホタテ貝殻を利用

『環境の保全・再生』



間伐材を用いた木製谷止工を設置し、堆積土砂流出を抑止

環境公共学会 世永会長のインタビューが新聞に掲載されました



取材を受けている世永会長

環境公共学会の世永会長が東奥日報社の取材を受けました。さまざまな分野で活躍する人や、地域に密着し地道な活動を続ける人たちを取り上げ紹介する「あおり人ごよみ（夕刊）」というコーナーの取材でした。本取材の記事は5月19日の夕刊に掲載されましたが、東奥日報社のホームページに音声版が掲載されていますので、興味がある方は是非一聴してみてください。

【東奥日報あおり人ごよみ 2014年5月分】<http://www.toonippo.co.jp/l-rensai/hitogoyomi/index201405.html>



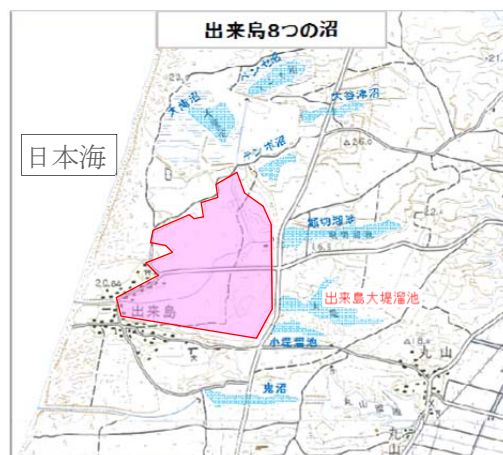
■「環境公共」事例紹介

出来島大堤地区（つがる市）

～ ため池環境資源を未来へ繋げよう。～

1 地区の概要

つがる市出来島地区 124ha の水田は、集落を囲む 8 つのため池が水源となっており、特に出来島大堤ため池は堆砂が著しかったことから、ため池等整備事業で浚渫工事を行いました。これを契機に平成 21 年 8 月に「出来島大堤地区環境公共推進協議会」を立ち上げました。事業は平成 24 年度で完成しましたが、協議会活動は平成 25 年度以降も継続して行われています。



2 地域の環境整備

地域の環境整備として、地域コミュニティの拠点、出来島コミュニティ消防センターに桜の苗木 37 本を植栽しました。桜の苗木はふる水基金を活用して協議会へ提供され、その他の必要な資材等（苗木の生育を補助する添木等）は協議会で準備しました。

植栽作業は、協議会員 13 名、県民局 3 名の計 16 名で 2 時間程度で終了しました。毎年春にきれいな桜の花が咲いてくれることを期待しています。

今後の活動としては、ベンセ沼での外来魚の駆除やジュンサイの移植作業などを計画しています。



作業終了後記念撮影



桜苗木植栽状況

3 土壌硬化剤を利用した排水路法面整備の効果検証

雑草の発生を抑制し草刈り作業を軽減するため、土壌硬化剤（マグホワイト）を利用して排水路法面の整備を行いました。整備は①排水路法面の表土をバックホーで剥ぎ取り（厚さ 10cm）②ため池浚渫土とマグホワイトを 10%で攪拌混合③バックホーで排水路法面に盛土（厚さ 10cm）の順に実施し、作業には協議会員 7 人が参加しました。（平成 24 年 11 月 20 日施工）

下の写真は整備後の排水路法面の状況です。



※ 平成 26 年 6 月 10 時点では、マグホワイトを施工した箇所に雑草が発生していますが、施工後は一度も草刈りを行っていません（同一路線の施工箇所以外は行っています）。同日の草刈りを行っていない路線と比較しても、雑草繁茂の抑制が確認できました。